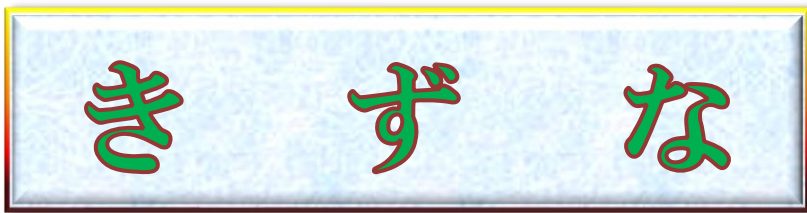


令和8年3月31日

TEL・FAX 0954-66-3113

発行責任者 江口常雄



す 住 み よ い げん き な みどり さと おお くさ の 元 気 な 緑 の 郷 大 草 野

第79回卒業式「光り 輝け ほたるっ子たち！」 3月13日(金)

学校に着いて、突然降りだした雨に、傘を持たずに事務所を出たことを悔やみながら、急いで仮設校舎の玄関へ入って行った。空気も寒気を伴った低気圧の影響で冷たい。今日は、大草野小学校の第79回



みんな、いつの日か、力強く、自分色に咲き誇ってね！

卒業式。令和2年4月、コロナ禍の中で始まった小学校生活。これまで、当たり前だったことがそうではなくなり、色々な工夫を試行錯誤しながら過ごさなくてはならなかった、今回の卒業生たち。

校長先生も式辞では、冒頭にそのことに触れ、これまで誰もが経験しなかったことを1年生の時から強いられて

きた日々だったことを、子どもたちに向け労いの言葉をかけられた。さらに、学校生活の中で色々な工夫をしながらの日々は、貴方たちを強く大きく育てた、とも言われた。次に、「知覚動向」という言葉を書いた紙を出されて、正しくは「ちかくどうこう」とよむが、「ともかくうごこう」と、読んで欲しい、と言われました。

考えるだけで体を少しも動かさなければ、「何につまづくかさえも分からないし、解決の方法も知れない。」と続けられました。そして、「それぞれ自分色の花を咲かせてほしい。」という言葉で式辞を締めくくられました。15人の卒業生は、懐かしい思い出を振り返り、発表していきました。思い出を発表していく中で、言葉を詰まらせ涙声になる子もいました。去年の卒業式では、進行役の川島先生の涙に、記事の中で突っ込みを入れましたが、今年は、自分が危うくなり、しばらくの間、卒業生に背を向けたりしました。

加齢によって色々なところが緩くなってくるが、涙腺もその一つです。

最近では、普通に生きることが難しい時代になっています。卒業生の皆さんは、これから、何が起きても負けない強い心を育ててほしい。

去年の卒業式では、式が終わって在校生が体育館から出るときに号泣している1年生がいましたが、その子も1年が経って成長したのでしょうか。

私は、3女の卒業式しか出席しなかったように記憶していますが、夫婦そろって出席された保護者の皆さんは、良い時間を過ごされたと思います、私は、損をしたのかも知れません。



次のステップへ、自信を持って！

卒業生の皆さん、式のとときに心の中に自然とあふれてきた、その気持ちをいつまでも忘れないで！

7年度 5回目の 駅のボランティア清掃 (3月22日:日)

初代嬉野温泉駅の駅長に就任された中野裕介駅長が、大草野小学校の卒業生という御縁があり、さらに、嬉野を訪れていただく方々を気持ちよく迎え、そしてお見送りたいというコミュニティの部会員からの意見で、7年度から奇数月に2か月に一度のペースで始めた嬉野温泉駅のボランティア清掃が、7年度の最後、5回目の清掃となりました。

駅のスタッフの皆さんの理解をいただきながら始めたこの清掃ですが、残念ながら、2回は行った駅のホームの清掃は、「プロ」のかたにお任せするということが、3回目からは、1階と、駅舎の外の掃除をメインに行っています。今回は、駅と隣接するホテルとの通路になっているインターロッキング敷きの道路部分、敷設してあるレンガの隙間からたくさんの小さな草が芽を出してきていましたので、その除去作業に男性陣は力を入れてもらい、女性陣は、駅舎内の清掃をお願いしました。レンガの隙間から出た草は、まだ小さく取りにくく、作業に合った道具を選んで用意する必要があると感じました。



年度末の慌ただしい中に、有り難うございました！



人目につかないところも！

また、使用することに問題が無ければ除草剤も有効だと思いましたが、市や駅に聞いてみたいと思います。この活動を始めるときに、大草野校区外の地域での活動ということで、賛成の意見ばかりではないのかな？という一抹の不安もありましたが、現在までのところ、「嬉野の玄関口をキレイにしたい！」という大草野校区の皆さんの気持ちが氣勢を占めているようですので、今後も続けていければと思います。



こんな小さな隙間から芽が！

大草野コミュニティ代議員の皆様へ 令和8年度総会のお知らせ

日時：令和7年4月19日(日) 9時から

場所：大草野研修センター 2階 大広間

(代議員の皆様には、後日個別にご案内をいたします。よろしくお願いたします。)

「六年目が過ぎる・・・」
 コミュニティ事務局長の職をいただいて、早いもので3月末で6年が過ぎます。
 2町合併前、総務課にいた頃に、当時の谷口町長とたまたま二人だけでいたときに、「地域が広くなれば、職員だけでは色々なものが行き届かなくなるので、小学校区単位くらいで、地域コミュニティを作りたい、その地域に合ったミニ市役所的な存在にしたらどうですか？」と言ったことがあった。
 社会体育を担当していた時に、各地域で開催されていた体育大会(運動会)を見てきて、自分たちの手で、自分たちの大会を盛り上げようとする地域のエネルギを見ていて、それを生かさない手はない、と思つたことだった。
 ただ、楽しいことばかりではなく、地域が地域として存続していくためには、それ以外にも必要なことが種々存在するが、活動を末永く継続するためには、まず、楽しくできることからスタートしていいのではないかと思つていた。そうして、大草野コミュニティも設立から20年近くになってきた。
 ミニ市役所的な存在にするための準備運動はもう十分だとみるか、まだまだだとみるかで運営の仕方や関わり方は違つてくるだろうが、市役所そのものに所期の目的を忘れている人が増えてくる気がする。
 私は、地域コミュニティの着地点はまだまだと先にあると思つている。

へへ編集後記